

【平成17年度専修学校教育重点支援プラン】

事業名	実践的コミュニケーション・スキルを育成するための教育プログラム開発事業		
学校法人名	社団法人 津地区医師会		
学校名	三重看護専門学校		
代表者	吉田 壽	担当者・連絡先	萩 典子・大西信行 059-222-1911
<p><事業の概要></p> <p>コミュニケーションの能力は看護の質に大きく影響を与えるが、卒業後まず困難に感じるのは、患者やスタッフとのコミュニケーションであり、それが離職につながるということが明らかにされている。そのため、看護師の専門性を発揮できるコミュニケーション・スキルを習得することを旨とした教育が必要とされていることから、実践的なコミュニケーション能力を育成する以下の内容を含む教育プログラムの開発を行い実践した。</p> <p>① 医療・看護の対象はすべての生活している人々を含んでいることから、コミュニケーションの奥義を医療・福祉関係者に限らず、様々な領域の専門職の講師を通して学ぶ機会を捉える。</p> <p>② コミュニケーションは、立ち居・振る舞い、表れ方・存在の仕方が大きく影響するため、日本の伝統的な礼法を取り入れ、実践的に学生が自分の身体の使い方と心の向け方を身につける。</p> <p>③ 模擬的に実践場面を構成し、一般人を対象（患者役）としたロールプレイング演習を行う。</p> <p>④ コミュニケーション・スキル習得で課題となる学生の自己理解を深め、対象と自分の「あいだ」について振り返ることを促し、学んだことを体験と結びつけて理論的考察を加え、自らのコミュニケーションを内面から磨き上げていくことができるように、教員のスーパーバイズ（SV）能力の育成をはかる。</p> <p><成 果></p> <p>看護専門職として、コミュニケーションを理論的に学ぶことだけでなく、それを実際にスキルとして高め、実践的に学んだことを表現できる技術を習得することが重要であるが、現行の教育では、コミュニケーション・スキルについての一般的理論、学内演習までにとどまっていたが、学んだことを表現することができる実践的な技術を習得し、対人関係の展開ができる実践力として身につくコミュニケーション・スキルアップのための教育プログラムを実施した。その結果、学生に対するアンケートやチェックリストの集計からは実践に結びつくコミュニケーションの習得に効果的だということが示唆された。しかし、客観的データとして、実践的コミュニケーション・スキルが育成できたどうか、全プログラムの結果との関連性は明らかではなく、今後も継続的にプログラムを実施し、結果を分析していくことが重要だと考える。</p> <p>上記④の教員を対象とした SV 能力の育成に関しては、結果の分析から教員は学生への SV の向上とともに、教員自身へのフィードバックとして、「自己理解を深める」「自己効力感、動機付けの高まり」が得られ、教育への肯定的フィードバックができ、教育技法の向上につながり、学生への今後の有効な指導へ繋がると考えられる。</p>			